資料 1-3

平成 26 年度　エゾシカテレメトリー調査

実施結果

１．概要

平成 25 年度に 2 頭のメス成獣に GPS 首輪を装着して、行動を追跡した。平成 26 年度には 12 月～3 月の間に、さらに 10 頭のシカ（メス成獣）に GPS 首輪を装着して、その行動を追跡中。

２．平成 26 年度の追跡個体

以下の表及び図に本年度の調査で捕獲したシカの一覧と、捕獲日、捕獲手法及び場所を示す。

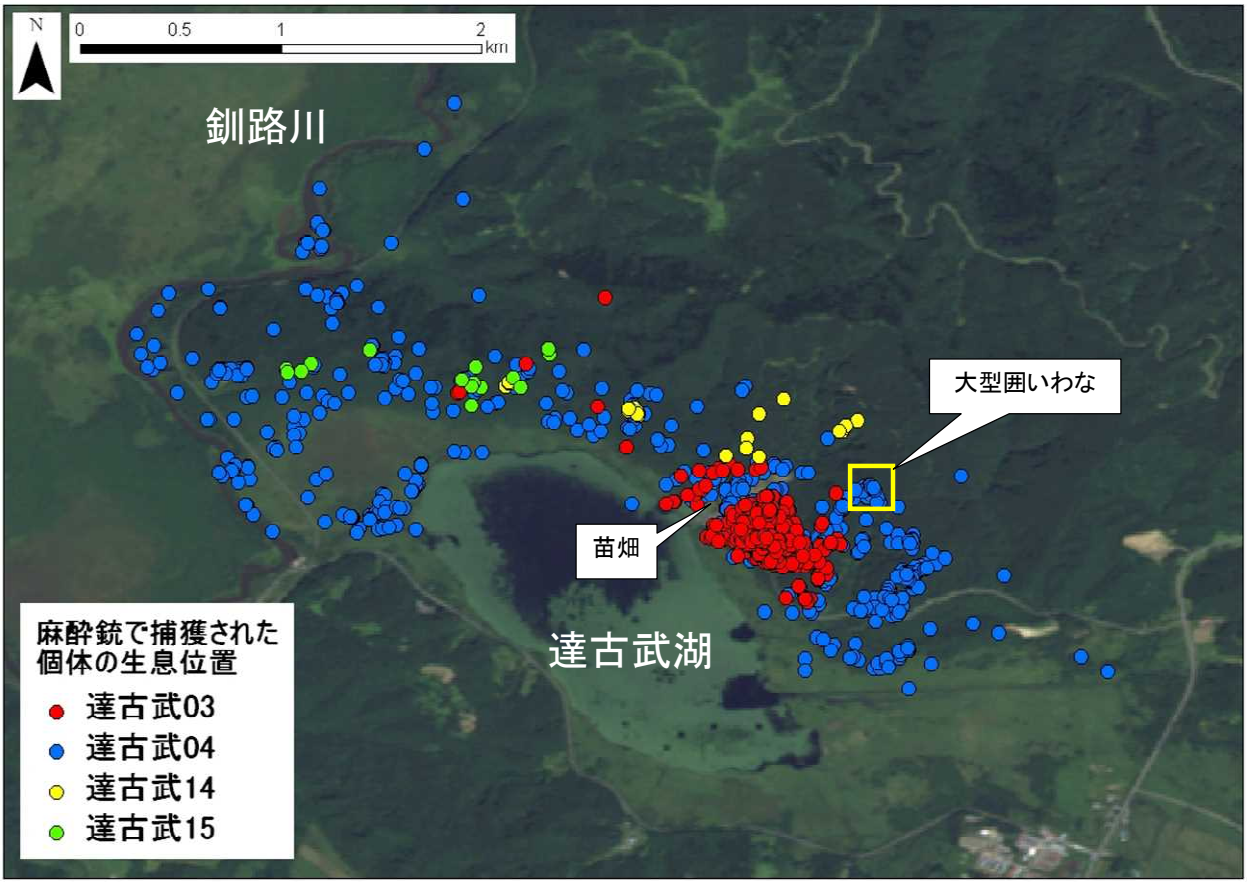
表　個体番号と捕獲手法の整理

図中記号	個体番号	捕獲方法	捕獲日（平成 26 年度）
③	達古武 03	麻酔銃	12 月 26 日
④	達古武 04	麻酔銃	12 月 27 日
⑧	達古武 08	大型囲いわな	2 月 10 日
⑨	達古武 09	大型囲いわな	2 月 10 日
⑩	達古武 10	大型囲いわな	2 月 12 日
⑪	達古武 11	大型囲いわな	2 月 16 日
⑫	達古武 12	大型囲いわな	2 月 16 日
⑬	達古武 13	大型囲いわな	2 月 27 日
⑭	達古武 14	麻酔銃	3 月 16 日
⑮	達古武 15	麻酔銃	3 月 17 日

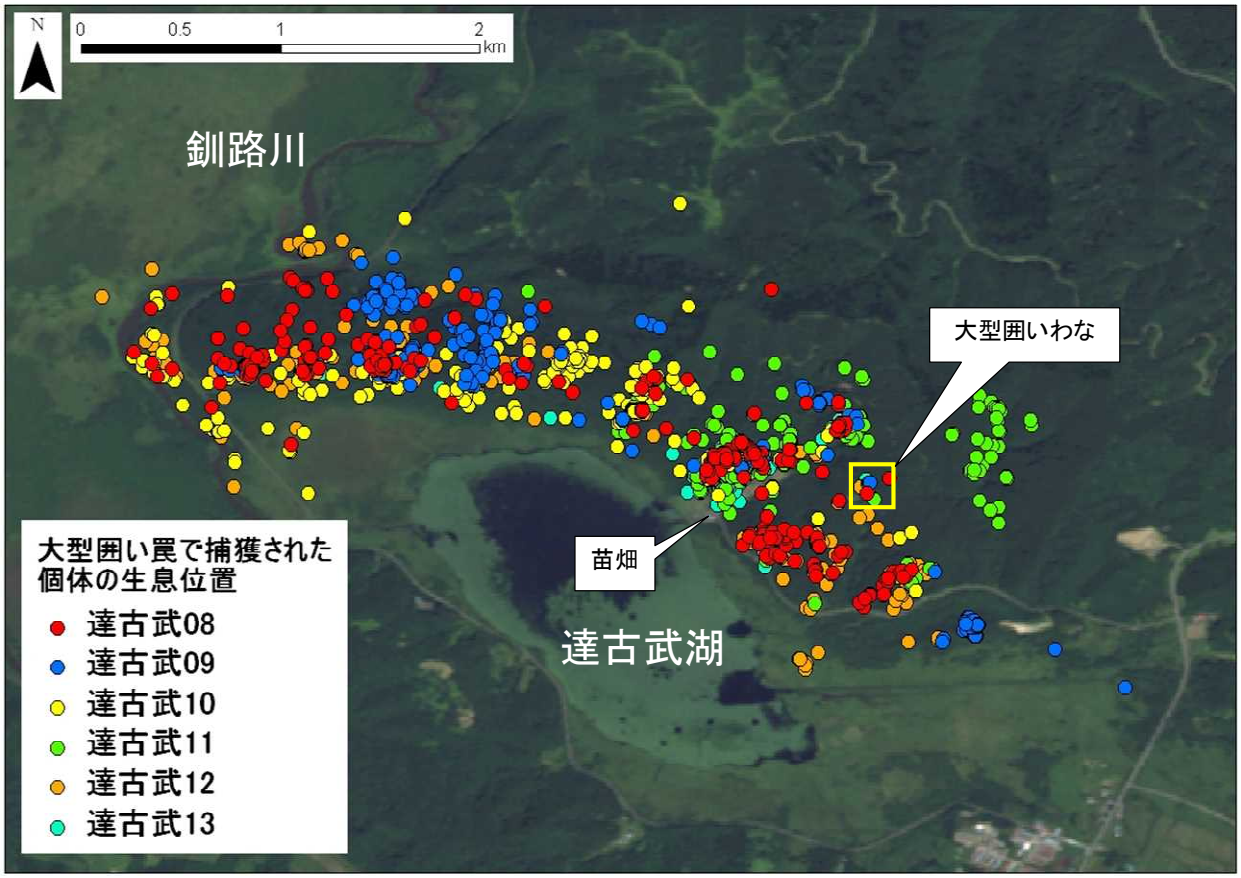
図　本年度の調査におけるシカの捕獲地点

２．追跡結果概要

（１）捕獲手法毎にみた、冬期の生息地利用



麻酔銃で捕獲した個体の生息位置



囲いわなで捕獲した個体の生息位置

（２）冬期の生息地利用について

平成 26 年 12 月末に捕獲した２頭の追跡結果（約 3 ヶ月間追跡）。冬期は全体的に行動圏が狭いが、達古武 03 はそのなかでも行動圏が狭く、達古武 04 は比較的広いので、この 2 個体をそれぞれの代表として示す。

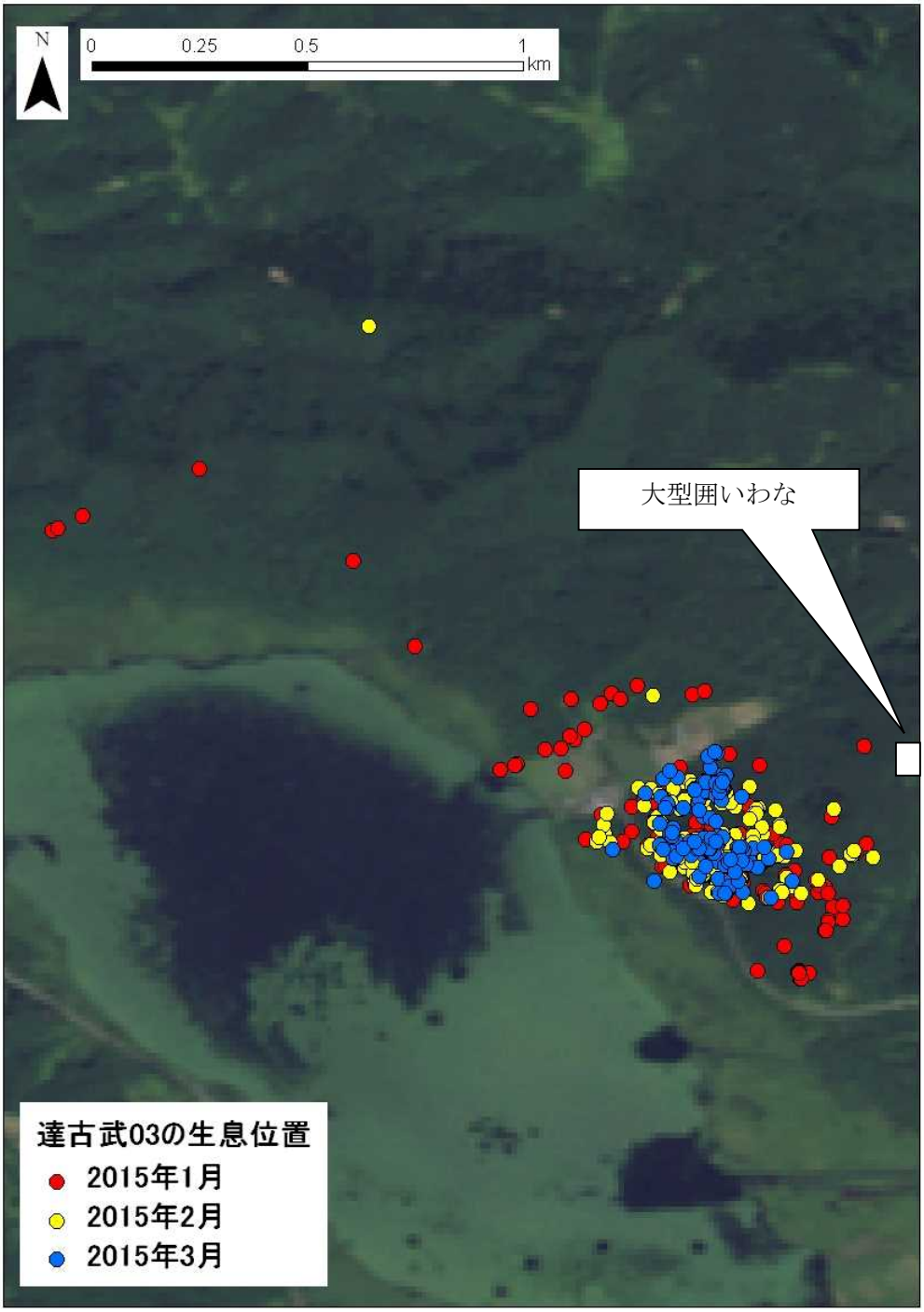


図　達古武 03 の GPS データ（平成 27 年 1 月～3 月末）

達古武 03 の行動圏は 95%カーネルで 0.2k ㎡、最外郭法（100%）で 0.9 k ㎡と求められた。大型囲いわなからは 1km 程度の場所を利用していたが、あまり大型囲いわなには誘引されていなかったと思われる。

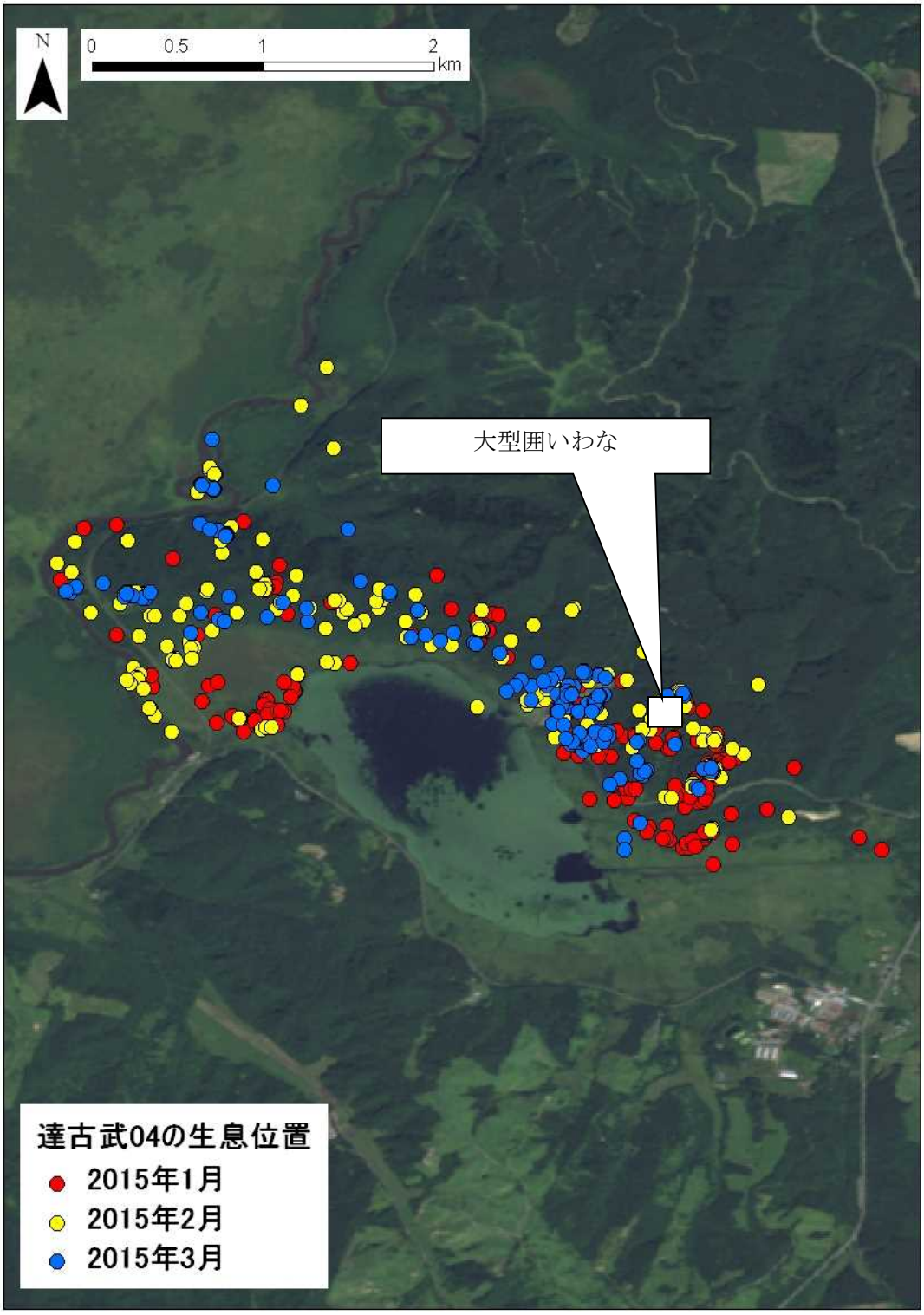


図　達古武 04 の GPS データ（平成 27 年 1 月～3 月末）

・「達古武 04」は「達古武 03」よりも行動圏が広く、95%カーネルで 5.4k ㎡、最外郭法で 5.3k ㎡。大型囲いわな周辺を利用して、餌に誘引されていたものと推測するが、大型囲いわなから 2km 以上離れた箇所も利用。
また、達古武湖の西側地域を多く利用しており、達古武湖から流れ出す河川の近くや、丘陵の先端地域などを多く利用。

●達古武 03 と達古武 04 の比較

・「達古武 03」は、昼間と夜間の差がほとんどないが、夜間に若干植林地が増加。

・「達古武 04」は昼間と夜間で異なる明らかに異なり、昼間は沼沢地（達古武湖の湖岸か、釧路川の左岸付近）を利用し、夜間に人工林（環境省所管地）を利用。大型囲いわな周辺の環境である「二次草原」の利用頻度が高いことから、大型囲いわなの餌に依存している様子。（H25 に首輪装着した 2 頭に類似）

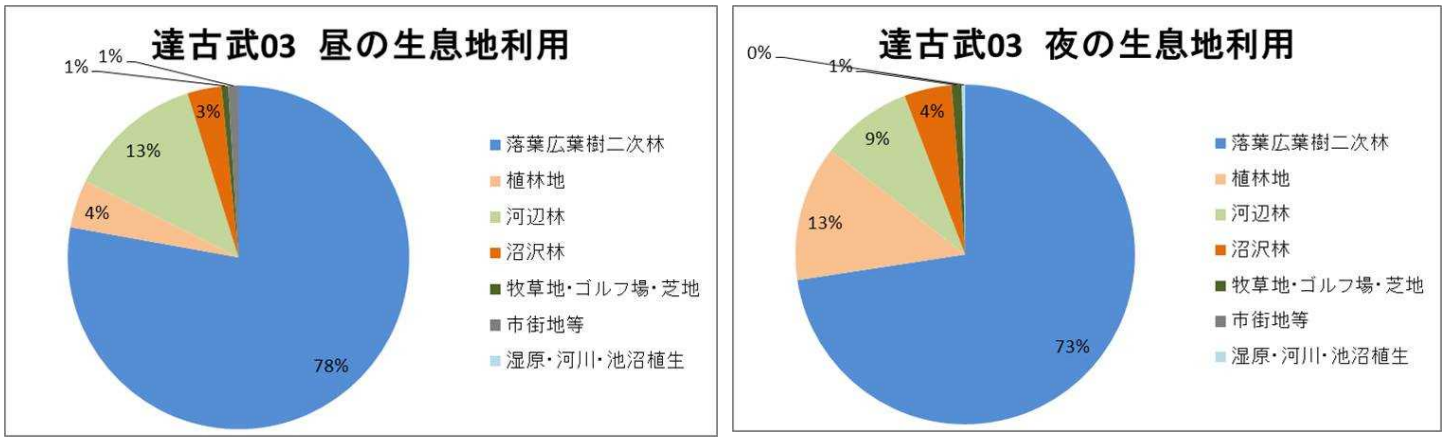


図　「達古武 03」の冬期の生息地利用状況（昼間と夜間）

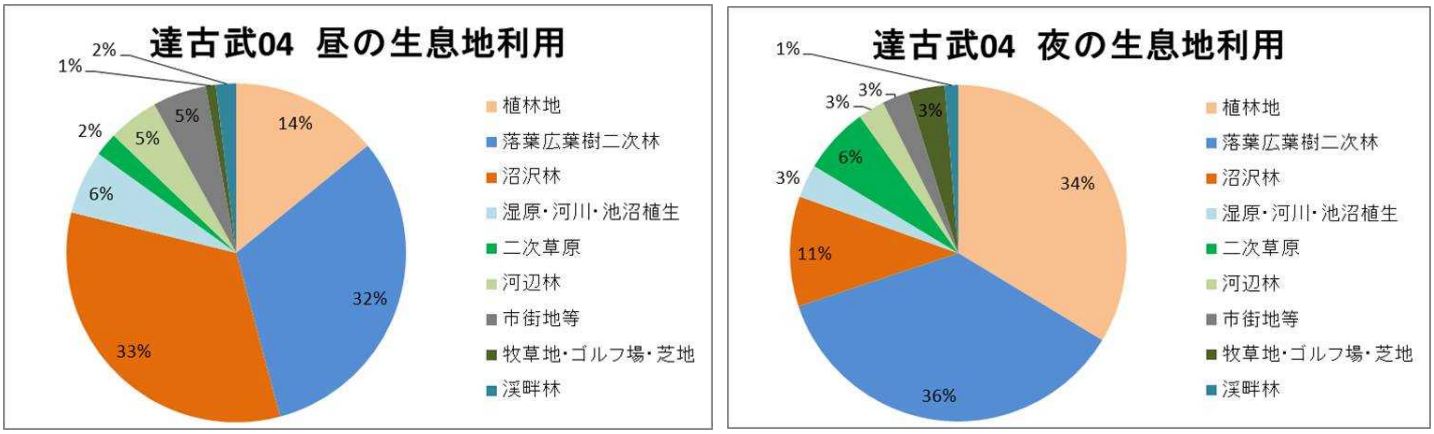
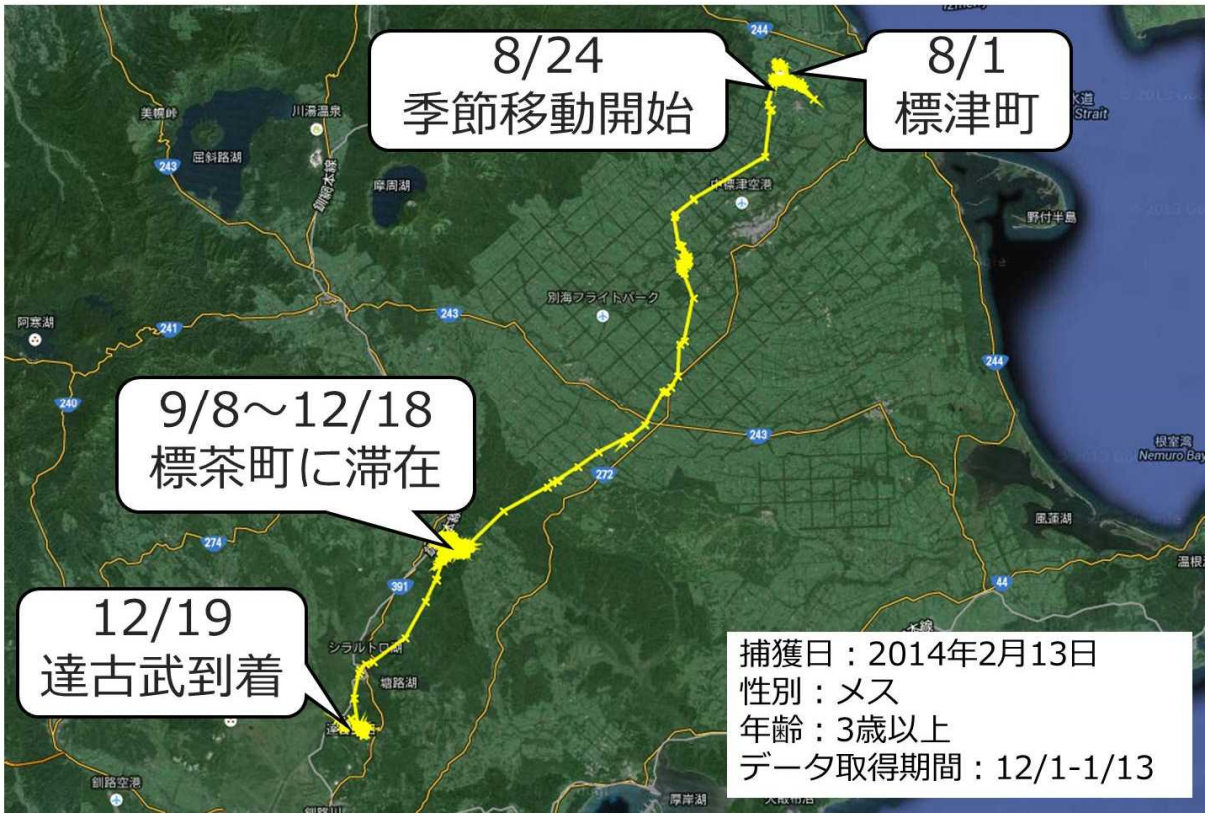


図　「達古武 03」の冬期の生息地利用状況（昼間と夜間）

●達古武 02（H25 首輪装着）の季節移動



※12/17 に今冬初の大雪が降ったのをきっかけに、達古武に戻った。

３．まとめ

・今年度は 10 頭のシカに GPS 首輪を装着。

・昨年度装着した 2 頭のうち、1 頭は達古武地域に残留（その後狩猟により捕獲）、1 頭は標津まで移動し、平成 26 年 12 月に達古武地域に戻った。

・大半のシカの冬期の行動圏は昨年度の調査と同様に狭いが、一部の個体は大型囲いわなから 2km 以上離れた箇所を利用。

・ほとんどの個体は釧路川を渡らず左岸側を利用。

・今年度 GPS 首輪を装着した 10 頭の行動を追跡し、次年度以降の達古武地域における個体数調整捕獲の手法検討を実施。